秩父第一番略縁起　全

四萬部寺小縁記

武州秩父郡第一番四萬部寺本尊聖観世音菩薩の縁記をりんげつまがつずけりくも人皇四十五代聖武皇帝の御宇天平寳字の比行基菩薩詔命を蒙り諸國巡ヱの砌（此事ハ元亨釈書に見へたり）當郡武山小遊行し叢下に寄し行すにやし一僧の幽谷より中毒疾光ゆあつてぱ法ひ讃嘆せり秦寺奉まつりひを称し村里にいたつて由緒ひ語りぬ。

8202042

聖人皆いふ。懐古(むかし)も此時く此事あり。魍魎(まうりやう)の
所為(しよゐ)なりと申して堂はゆゆしき恐(おそ)ろしの行基
因くおもへば今般かの所はゆいて懐旧(くわいきう)の聖跡を
づめ給ひしとて。巌下(がんか)に坐り心身(ちんしん)をすまし
く念誦(ねんじゆ)しめたまふ。幽谷の中に大樹(たいじゆ)は空(うつろ)乃
中。かゞまりてあつて。観相仏形(ぶつぎやう)は似(に)たるもの
阿つて。誦経(ずきやう)するうちに。天ぬく彼うつろ乃
中伐(き)うつりしに。栃樹(とちのき)の朽(くち)たるの自然(しぜん)の仏形
とうり顕はれ給ふ。然れども阿弥陀仏の形像なる
由記(つまびらか)にせしに。此栃樹年ありて自然の仏形を
而其は後く所を栃谷といふを
法然上人の因縁なりとて四萬部の念仏を修し
今の世も栃谷へといふ名も乃ある所の由来なり
乃奏せい給ひて因ぞ此仏法弘通(ぐづう)の記なり。
いづれの仏菩薩(ぶつぼさつ)とも申す利生(りしやう)の記ありて。
末代に跡(あと)を残しましまさん為に文真(もんしん)相伝(さうでん)の説(せい)し
其らんとて。七日夜(ご)おかし奉(ぶ)く御参籠(まんぶつ)給(たま)ふ。七日
小満(まん)すれば微(び)風(ふう)香気(かうき)をあらはしに紫雲(しうんけい)渓

谷にしらべ和雅音楽乃まじはりて満空いよく
かしこき基現ありしか霊場へハふしぎの瑞相
さながら見しめし栃樹のうへに光明として聖
観世音の霊像出現しまします其名を示させ
給ふ春に告て曰く此地深山幽谷なりといへども。
我むかし法華経を読誦せし所也。ときに
有縁の衆生無縁の者まで擁護かへしめ
ひろく此故に是より此所にて妙法を弘むべき
すゞ讃今我示現乃其相ひろくして此地に
始ふかく結縁なさしめば衆縁に応じ成就
して王公大臣権者たる僧も信仰すべし時
に我身三十三所に分身し国位の示現して衆
生の為人を救はんと云ふなり因て霊地乃中に加
へ給ふ 西國坂東秩父皆三十三所とこれを立
三十四所と云ふ今此所にて我身三十三所に分身してとの給
ふとりて文暦元年に十三人の権者秩父を明白に示
時施主等乃霊場なり時ぞして分身三十三を合して三十
四所と建立す文暦元年日本百番乃札所此に立しより
三

霊木の御奉せん磯所に絶じ則かの栃樹
未来記なり
一株をもんで尊現の形相を彫刻し御長
七尺あまりに出来たる像。御若かく満ちたる岩窟の中
に突然たる胎内に回附四萬部経のおさむる是なりといふ
貴量を添へて。王公大臣乃崇敬も厚く権者
なる像の往昔よりむかしより岩窟乃中にあり
せり。爰に一条院の御宇正暦年中花山院
法皇那智山に御幸ありて吉野よりし
御千日なり其時に龍神如意宝珠一顆水晶の珠数一串
九穴の鮑貝一枚を奉りし鮑貝ハ那智乃滝壺に沈めたまふ
御座ハ九重和歌を見よ　日本百番の霊地なれは霊場乃始也
まうりめし給ひんと語り継ありき。飛瀧権現
是則ち山飛瀧権現本地千手観音也一説ニハ大己貴尊
那智の滝壺より如意輪観音乃尊像を現出現の文社
家の説にハ摩訶陀国無縁大臣　童子の姿となり
日本に飛来せ給ふと云
天竺補陀落より渡りて百番の霊地となる
縁の下に崇めけるはなりけり御指をささく
竹人ハ補陀落より光明十方にてらす百番乃霊地

尊像のあんちう歴経としてかの光明乃中に
示現まり。法宝蔵のゆゑあり。略して御談議
あらはし世給ふ。光明乃中蔵ゆゑなりとせしめふ
是非ありとハちう今の百番乃札所是なり 西国の札所開白ハ養老二年徳道上人和州初瀬山寺十一面観音を本尊と定せ給ひ建立日本観音堂の初くと縁起にみえたり 坂東の札所開白ハ永観二年と云ふ修行 秩父開白の期を考へず なりとも。せもいまだ東都と見えず
物語異様く国ぶりの法札行はずありしうまず巡礼の
みち絶あとむなしうして休ていまものなし。
ある跡縁起依りしきものゝ 保元平治の乱天下不平にして神社仏閣もしく焼亡せり
よ西条院の御宇文暦元甲午年三月十八日。
十三人の権者山伏の姿となりてハ 文暦元甲午年三月十八日十三
人の権者巡礼せんたつとなりのふ故実まよつて秩父札所ハ
往古より午年まて正月元朝から九月晦日まで三十四箇所惣
開帳之又甲午年ハ正月元日より十二月晦日まで惣開帳之
毎年三月十八日当山観音祭礼なれハのしなし
当山岩窟の中にて尊像ゆかりの尊像を出生つて
ありむりし法宝蔵ゆゑ乃是非三十四所を開白
しめふ 法宝とハ花山法皇なり四番所の尊像秩父を表したまふ 則七十四日ニ了

て三十四所の巡礼しをはりて高山より海。百番巡礼
成就供養の法要ありければ今のなるゝ家
小おがみく。法華経ハいくばくもなしのこと四万
部へ。それに百番の観世音が多く其眷属を
召して来迎し。権者乃供養ハしるしあらたなり。
ぬ。しかも山中の岩ま屋石しく文字ハ
示現ぎり。十三人権者ハそのいで。一ッの塚を
築き。百番ばかん礼成就供養法華四万部是

経塚とうやまひ合掌し誓願し給ふ。
末代乃衆生。信心あつく一度此礼せん輩は。
たとへ極重悪人なりとも罪業きゑのぞく諸
我が本誓を讃すべし　是阿弥陀如来御化身十三人の権者は内にハ…
四重五逆乃罪人なりとも一度巡礼せん輩は。
大地獄の中に落ることなし　是閻魔大王の御化身乃誓願なり
邪見の者なりとも。此礼の功徳によりて一足の底と
徒しむ食乃食を施したる者も。我みる事

礼して六道乃苦患をまぬかれしめん是倶生神御化
身乃罪悪も凡夫なりとも一度巡礼させん〇善ハ
発起
永に経ををさずとも冥加あらしめ〇福徳
らず禍をのぞかむ是明星菩薩蔵王権現乃御化身の超誓所なり我慢
慳貪の家なりとも〇巡礼の行者に随喜の志
あらハ〇水火災死の難をまぬかれん是愛宕権現稲荷明神化身の超誓
たとへ貪欲邪見乃身なりとも〇一度巡礼せん
輩ハ〇子孫繁栄して〇位高官に昇進せん是花山白河尊
法皇乃御誓願也此法皇御在位の砌御仏法に
花山院は那智山にて千日御参籠あり白河法皇ハ五度参籠
後白河法皇は二十四度参籠今文暦元年中秩父巡礼開白の
時所示現し給ひし白河法皇ハ後白河法皇なりとぞ
あらはし御在世の砌巡礼のたとへ短命無福乃身なり
とも是によりて御示現
も一度巡礼せん輩は〇福寿をまさらん〇経て
佛家に生まれん是法道上人御化身の超誓所なり此上人佛在世に五百の持経仙人あり即法道仙人
三時に仏勤をつとめ日夜に妙典を
西国乃札所を建立したまふたとへ不信不実の
も巡礼せん輩も〇先々菩提路世界に往生す〇
微妙の法門を聞て六根清浄ならん是書写山性空上人御化

七

身の證 説なり 苦しく難治の重病をうけん者も一度
順礼せん輩はかならず方便をもつて現世あんをん。
後生善處のせん 是醫王上人（御化身の御誓願）上人は春日明神開山縁起彰者の化身也
佛菩薩師如来也 御化身と云々 たとへ觸穢不浄の男女巡礼せん
輩ハ。末世末代まで我同行と。我前に三十三度
参詣せんよりハ。一度順礼せよ。一度ハ父のため
一度ハ母乃ため。一度ハ自身乃ため 西国坂東秩父 此百ヶ所観
三度順礼せん事たゆまずすたとへハ秩父なりにても父
母自身のためにも三度ずつ順礼されハ[illegible]百番ともに観音[illegible]と
建立する事ハ果満成乃佛相かくのごとく行者
百福荘厳乃御ちかひに擬して
ゆくへハ。わが身に添て守護し悪事災難我
[illegible]をうけ。貧者にハ福をさづけ病者には[illegible]
薬我に久しく子なき者にハ子を授け短命にハ長命
をあたへ給ん 是熊野権現御化身乃誓願にて此十願を信じて礼
[illegible]の身にうけれハ即十徳あり 世に順礼乃千手と
いふハ是より今時まで信じん礼の行者たとへ同行二人なり
とも同行四人と札に書きたまへ是誓願に随ひ信じん説きん
者ハ末世末代まで我同行と守り給ふ依て熊野権現と申
行は書を通はする文おいすり観音閣する文に文暦二年
十二月乃權者成と[illegible]以後なかに入し文女人の月
乃障ありとも此誓願ゆゑ觸穢不浄の男女末世末代まで

我国乃ことのもとよりて彼の像もいとやすとなり
彼れ除のやうを權現乃御法をもつて南無あり出之
十三人の權者。此十羅を尊ぶゆゑて利益衆生
乃眉を引く歓喜ゆゑくしらく各本願
わうしや許よ向ふ世許ふ十三人とは權者
とは阿弥陀如来閻魔大王倶生神妙見菩薩
藏王權現愛宕權現稲荷明神花山法皇仁
和法皇徳道上人聖空上人醫王上人熊野權
現此十三人の佛神ある儀の法花経四要説
於涌出る縁起山より出ます　是等の

佛神法皇高僧たち各所にて此尊なる勧誘にしたがひて
化導しける故に百番の札所の御宮山においても。
法華四要部ごとく番ぶし続けける。百番を
觀世音御来迎なさる故に札経塚乃おこし
て。各御誓願の廣大なる事いふもさらなると
にや經文は苗ひりし霊山によつて法華と名け。
今西方にまては彌陀と名け。末世濁代の名
觀世音と名く。すなはち法花弥陀。観音。法佛

下略乃義理をさとりし。此礼の行ずるなハち
観自在なるべし。なを念彼観音の力に 心経秘鍵に観自在とハ
能行の人とハ一切諸法の者の通名なり。これハ今時志んじん礼
の行志智意見を放下して観世音を念し一心称念す
れハ浅乃なる浅きを縁としてを自身が首の
観世音自然に顕現すべしたりとむべしと云 今世後世
朽まぬ御経として最同かなきこえ給を謗読に
あり経や一巻ならぬ法乃数ハ四萬部此寺の経
此読むる人古書を難難権現の所なりと云伝へ百書乃
語読拙句陣章多ハ同し字にして欲保ハ意味深長に
してげし難し浅略に釈せば法花ハ法佛なり乃経王にし
て一句一偈も凡かくてはかうしいわんや百書供養の功さへ

人の権者四萬部の法経をもつて経を納めて供養のつとめ
此礼乃標となさせしまゝ寺をいふ。一せるをもひま
まするに我弥陀是ハ浅略ハ委くたすれハ法華乃妙用
弥陀観音ハ三摩一切衆生胸中八葉肉団自性清浄の
本体三十一文字乃中に含蔵せり。実に和歌ハ此ゆへ
日本の陀羅尼とも云なんて乃秘釈なりと今ハ略之。此ゆへに
山を誦法華経山と号し。寺ハ我四萬部妙音寺
と云ふ。往古ハ誦法華経山と云しを中古より観音堂を法
花山四萬部寺といふ別当所を誦経山妙音寺と
改されしも今時ハ異説に随ひてハあの山号寺号通し
用ひ許の名も存ずれどもにしく抄合とも四萬部とも
通し用ゆるのみ。往古の遺跡今なお変えず。天平
年中ある事く
寶字の尊像今に秘蔵し甚ふる事誠に殊に

思議(しぎ)の因縁(いんえん)。なりとぞ申しと云云

四萬部寺藏板

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]